

令和元年度 学校自己評価計画書(中間報告)

石川県立七尾特別支援学校輪島分校

重点目標	具体的取り組み	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	中間結果	分析（成果と課題）		
1	キャリア発達を促す	①	・児童生徒が学んだことを生活や社会で生きて働く力となるための算数・数学の授業改善を行う。指導内容、方法について学部全体で共通理解し、他教科等との関連を図る。	学習支援課	算数・数学の授業担当者全員が授業研究を各部で行う。（各自1回1点） 各部で他教科等との関連を図式化する。（各部で1点）	合計点が A：100% B：90%以上 C：80%以上 D：80%未満	授業研究は小学部で5/5、 中学部で2/2、高等部で2/3であった。他教科との関連図は各部で作成、改善中である。（2/3） 【84%でC】	一学期の部研究や及び二学期に実施された要請訪問を通して各部で算数・数学の授業改善が行われてきている。授業研究の数だけでなく質の向上にもつながるように、年度末の研究のまとめに向けてさらに授業改善を行い、関連図の充実に努めていきたい。
		②	・夏季休業中にアセスメント研修会を実施し、採点や集計、結果の解釈の仕方について演習を行う。児童生徒に実施した検査結果を学部内で共有し、指導に活かす。	自立支援課	〔成果指標〕 アセスメントの実施の程度で評価（アンケートを実施） 3：アセスメント結果を指導に活かした 2：アセスメントを実施した 1：アセスメント研修会に参加した	評価の合計点が A：45点以上 B：35点以上 C：25点以上 D：25点未満	アセスメント研修会の参加者は2日間で22名。アセスメント実施と指導への活用については年度末までにアンケートで評価する。 【22点でD】	今後アセスメント実施予定者が3名、昨年度結果が指導に活かせていない生徒が4名残っているので、結果の分析への支援を行う。
2	地域とのつながり	①	・進路支援課が企画し、各学部で地域交流を行ってもらおう。学校の取り組みや子どもたちについて知ってもらう機会とする。	進路支援課	交流先にアンケートを実施し、交流の充実度を評価してもらう。 A：とても充実した交流ができた B：充実した交流ができた C：あまり充実した交流ができなかった アンケートの結果を次回の交流に活かす。自由記述欄を設け、評価とともに地域のニーズを知る。	アンケートを実施した結果 A：A評価が100% B：A評価とB評価の割合が90%以上 C：A評価とB評価の割合が80%以上 D：A評価とB評価の割合が80%未満	年度末に評価	支所清掃や公民館清掃などの地域清掃を年間を通して行っており、地域との交流が活発化している。後期には老人ホームの慰問や福祉事業所との交流を予定している。
3	安心・安全な学校作り	①	教室等の日常点検、月1回の安全点検、年2回の環境衛生検査等を見直し充実させ、児童生徒が安全に、そして健康を保持し安定した学校生活が送れるよう学校環境の整備を行う。	生活支援課	日常点検、安全点検で問題があがってきた箇所を、情報共有し、改善または修繕できたかどうかで評価する。	環境の改善または修繕割合が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	【B：70%以上】 （4月～9月） 19件中14件の改善又は修繕を行う。	月1回の安全点検表を確認しながら、全職員が点検担当箇所の状態を確認する。 現在、数件の未改善・未修繕である。 規模も大きく時間と費用がかかるが、優先順位を決めて環境整備していきたい。
4	業務改善に向けた	①	・会議や研修会の効率的な実施に取り組む。会議の進め方として、事前資料配布・会の目的の明示・進行の視覚化等を行い、業務改善の意識改革に取り組む。また、教職員各自の働き方を振り返り、より効率的な業務の実践に取り組む。	全教職員	中間と年度末に教員からアンケートを取り、より改善できたかどうか測る。 A：改善された B：まあまあ改善された C：やや改善されなかった D：改善されなかった	アンケート結果 A：AとB合わせて60%以上 B：AとB合わせて50%以上 C：AとBあわせて40%以上 D：AとBあわせて40%未満	中間アンケート結果より Aは17% Bは42% Cは8% Dは0%であった。 【AとBを合わせて59%なので：B】	会議や研修会の効率的な実施が、教職員の意識の中に浸透しつつあると思われる。 <3つのカエル> ・意識を変える・やり方を変える・定時に帰るをスローガンとし、さらに意識改革に取り組む。